

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 4 区分

【発行日】平成22年12月24日(2010.12.24)

【公表番号】特表2010-509103(P2010-509103A)

【公表日】平成22年3月25日(2010.3.25)

【年通号数】公開・登録公報2010-012

【出願番号】特願2009-536480(P2009-536480)

【国際特許分類】

B 3 2 B 27/36 (2006.01)

C 0 8 J 5/18 (2006.01)

B 3 2 B 27/20 (2006.01)

【F I】

B 3 2 B 27/36

C 0 8 J 5/18 C F D

B 3 2 B 27/20 Z

【手続補正書】

【提出日】平成22年11月5日(2010.11.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 7】

一つの実施形態は、0.1 から 20 質量%のタルクを含有する少なくとも一つのサブ層及び少なくとも一つのコア層を含み、サブ層がコア層よりも低い融点温度を有する、ポリエステルフィルムである。そのフィルムが、60°において10から90の光沢度を有することが好ましい。そのフィルムが、1%から40%のヘイズを有することが好ましい。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

0.5 から 15 質量%のタルクを含有する少なくとも一つのサブ層及び、少なくとも一つのコア層を含む二軸配向したポリエステルフィルムであって、

該サブ層が該コア層よりも低い融点温度を有し、該フィルムが、二軸配向に続いて該タルクを含有する該サブ層を部分的にのみ融解する熱処理温度で熱処理され、該フィルムが5から40%のヘイズを有し、該タルクを含有する該サブ層が60°において10から90の光沢度を有し、

さらに、該フィルムがヘイズ転移温度を有し、該フィルムが該ヘイズ転移温度未満で熱処理される、

ポリエステルフィルム。

【請求項 2】

前記サブ層がポリエチレンイソフタレートを含む、請求項 1 に記載のポリエステルフィルム。

【請求項 3】

前記サブ層が少なくとも20質量%のポリエチレンイソフタレートを含む、請求項 1 に

記載のポリエステルフィルム。

【請求項 4】

前記コア層がポリエチレンテレフタレートを含む、請求項 1 に記載のポリエステルフィルム。

【請求項 5】

前記フィルムが少なくとも 85 % の全光線透過率を有する、請求項 1 に記載のポリエステルフィルム。

【請求項 6】

前記コア層がタルクを含む、請求項 1 に記載のポリエステルフィルム。

【請求項 7】

前記サブ層が含むタルクの割合が前記コア層のタルクの割合に対して大きくなる、請求項 1 に記載のポリエステルフィルム。

【請求項 8】

前記サブ層に堆積した金属層を更に含む、請求項 1 に記載のポリエステルフィルム。

【請求項 9】

前記サブ層に堆積したインク層を更に含む、請求項 1 に記載のポリエステルフィルム。